

エルサルバドル政治経済月報

(2018年1月分)

2018年2月
在エルサルバドル大使館

[大使館のビジョン]

エルサルバドルとの友好親善関係を増進し社会発展に貢献しながら日本の国益と国際公益の向上を目指す。

[大使館のミッション]

1. 日本の平和や繁栄を守るための外交政策の構築と実行。
2. エルサルバドルの世論に働きかける広報・文化事業の推進。
3. 在留邦人の生命と財産の保護、日系企業の活動支援。
4. 政治経済情報の収集・分析。
5. 自立的かつ持続的な開発への協力。
6. 服務規程を遵守し、風通しの良い職場環境の維持。

内政

1. 選挙キャンペーン

4日、野党 ARENA がイサルコ市で、6日、サンミゲル市で及び与党 FMLN がサンサルバドル市で大規模集会を開催するなど、3月4日の国会議員・市長選挙に向けて各政党の選挙キャンペーンが本格化。

2. 2018年度予算案

5日、5,520百万ドルにて2018年度予算が可決・成立。歳入の内、税金は4,461百万ドル、公債732百万ドル、歳出の内、借款返済が321百万ドル、公共物補修に331百万ドル、年金に290百万ドル。

外交

1. TPSの終了

8日、米国政府は、在米約19.6万人のエルサルバドル人に与えられている一時的身分保障(TPS)に関し、18ヶ月の猶予期間の設定及び2019年9月の終了を発表。

本終了に関連して、在米エルサルバドル人の移住先として中東のカタールや南米のボリビアが取り沙汰され、また、国内に帰還する国民の再定住のため国際機関に対して1億ドル規模の融資を求めているとの報道あり。但し、大部分は米国に残るか他国に移住し、当国への帰国は限定的と言われている。

2. CELAC関係

21-22日、チリで第2回中国・CELAC(ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体)閣僚会合が開かれ、CELAC議長国としてマルティネス外相が出席。中国の南米一帯一路の説明のみで終始した。

経済

1. TPS（一時的被身分保障）終了の経済影響

中銀の統計によれば、TPS 対象者からの家族送金は家族送金全体の 21% を占め、シンクタンクの分析によれば、TPS 終了により、今後、家族送金総額の約 3%（1 億 5 千万ドル）減少する見込み。

2. ラ・ウニオン港コンセッション法改革法の可決

24 日、当国国会は、賛成 49 票をもって、ラ・ウニオン港コンセッション法改革法を可決した。主な修正内容は以下のとおり。（法案詳細は今後大使館 HP に掲載予定）

- (1) コンセッション付与年数を 30 年から 50 年に変更
- (2) コンセッション対象を港湾付近の土地、海上、付帯施設、駐車場、港湾区域のインフラまで拡大（以前は港湾ターミナルのみ）

本年 6-7 月に入札公示予定。

3. 米企業による太陽光パネル設置

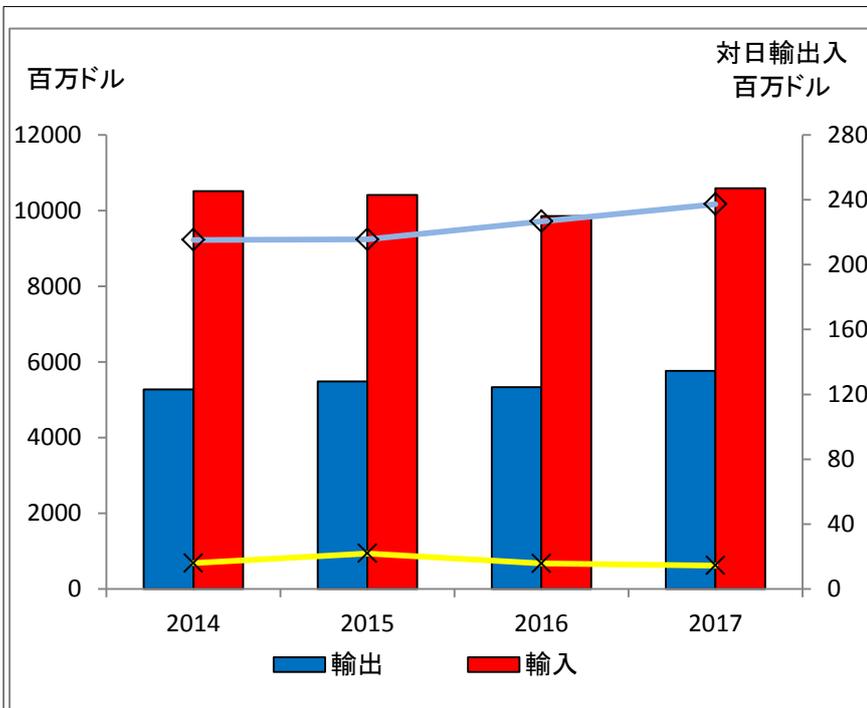
米 Suntrack Energy 社はラ・リベルタ県アルセ市のフリーゾーンにおいて、500 万ドルに及ぶ太陽光パネル設置の投資を行った。概要は以下のとおり。

- (1) 78 のインバータ、15,497 のモジュール設置（屋上）
- (2) 発電容量 5MW

4. 2018 年経済成長見通し

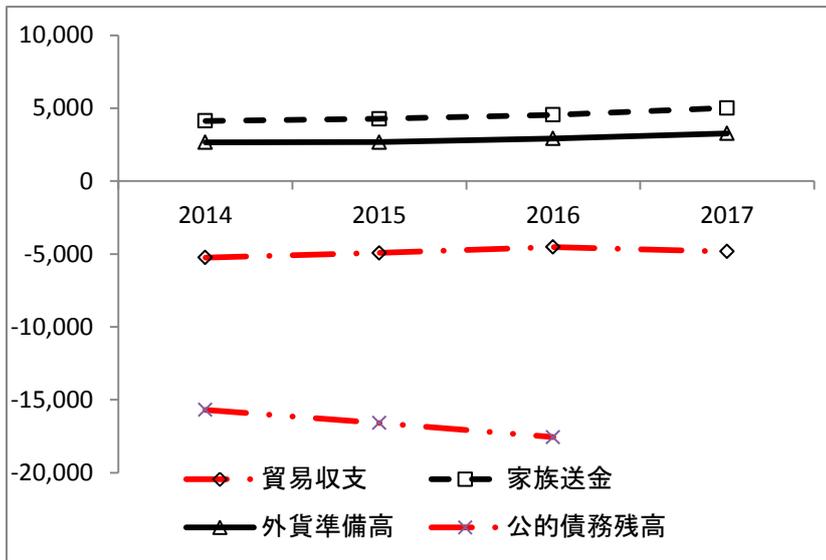
当国及び国際機関の 2018 年経済成長見通しは以下のとおり。

- (1) 当國中銀：2.5%
- (2) CEPAL：2.4%
- (3) IMF：2.3%
- (4) 世銀：1.8%



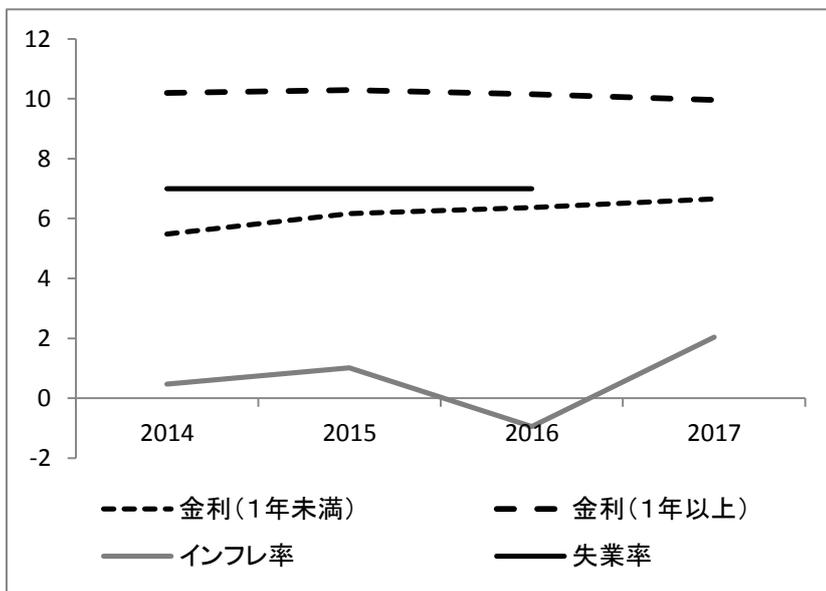
・ 2017 年度輸出額は前年比で 6.3% 増加し、57 億 6 千万ドルとなった。中でも、衣服、繊維、砂糖の輸出が輸出額増加に寄与した。

・ 輸入は、前年比で 7.8% 増加し、105 億 9,200 万ドルとなった。



・輸出は増加したものの、貿易赤字は前年比で9.6%増加し、48億3,200万ドルとなった。

・2017年の家族送金額はここ数年で最も高くなり、前年比で9.7%増加し、50億2,100万ドルとなった。米国からの家族送金は全体の約97.2%を占める。



・2017年度のインフレ率は2.04%となった。住居、水、電気、ガス価格の上昇に起因。

出所：中央銀行，経済省統計局より作成

治安

【主要事件・報道】

1. 当地主要紙の報道によると、2017年通年における殺人件数は3,954件で昨年と比べると25ポイント減少した。10万人当たりの殺人発生率は約60、1日あたりの殺人件数は約10件となったが、依然としてその数値は高く、中米地域においてはワースト1となっている。

2. 2017年において、米国内にて有罪判決を受けた強制送還者数（エルサルバドル人）は1,241名であり、2016年と比べると2倍以上増加した。治安当局により、居住地や立ち入り禁止区域、定期的な申告等を強制送還者に対して義務を課しているものの、基本的には、自由な状態であり、強制送還者の中には、再び犯罪に手を染める者や、犯罪組織に入る者がいるため、治安の悪化が懸念される。また、今後も強制送還者数は増加してくものと見られている。

3. 1月9日ホンジュラス沖にてマグニチュード7.6の地震が発生。当国において、この地震による被害は確認されていないが、当国でもマグニチュード2.8~4.0の微動地震が頻繁に観測されているため、各家庭及び職場の避難口やその避難経路、備蓄品の確認やヘルメット、懐中電灯等の確認を行い、大地震発生に備えていく必要がある。

4. 1月13日午前9時頃、ラ・リベルタ県ウイスカール市内を自転車走行していた30人のグループが武装した犯罪集団9名の襲撃を受け、所持品を強奪された。サンサルバドル市内では、夜間帯や土日祭日に、自転車走行をしている集団を見かけることがあるが、それらの集団が犯罪被害に遭うのは非常に希であり、これは犯罪集団のターゲットがより広範囲になりつつある可能性が大きい。

5. 報道によると、1月の殺人件数は317件（前年同時期よりも58件増加）であり、3月には国政選挙も予定されていることから、治安の更なる悪化が懸念されており、引き続き、治安の動向を注視していく必要がある。

【主な邦人居住地区及び観光地治安情報】

1. 1月中のサンサルバドル市サンベニート地区及びエスカロン地区の殺人発生件数は0件。

【観光地等における危険度レベル】

レベル1:十分注意区域

レベル2:不要不急の渡航中止区域

国立ダビッドJ・グスマン人類学博物館(MUNA)	サンサルバドル旧市街
ティン・マリン児童博物館	平生三郎公園
エルサルバドル美術館(MARTE)	サンサルバドル市の動物園
プレシデンテ劇場	プエルタ・デル・ディアブロ
サンサルバドル近郊のゴルフ場	
ベンゴア球場	
サンサルバドル市国立民芸品博物館	
クスカトラン・スタジアム	
サンサルバドル火山	
カフェタロン・フットサルコート	
ラ・リベルタ県のビーチ	
イロパンゴ湖	
サンタテクラ旧市街	
コアテペケ湖	
セロベルデ自然公園	
エル・ピタル山	
ラ・パルマ市	
サンタ・テレサ温泉	
スチト旧市街	
サン・アンドレス遺跡	
タスマル遺跡	
カサ・ブランカ遺跡	
サンタ・アナ旧市街	
オロメガ湖	
エル・ホコタル湖	
サン・ミゲル市	
オロクイルタ市	

治安統計

主要 11 犯罪（1 月－12 月）過去 2 年との同時期の比較

